

# 日本の農村における活性化戦略:京都市上世屋の事例

計 彬 爛

キーワード: 上世屋、高齢化、過疎化、活性化活動、

## 1. 背景と目的

日本全国で激しさを増す高齢化や過疎化は、農村において特に深刻である。人々が住み続けることのできる農村を、存続できる状態に維持することが大きな課題となっている。本研究では、既に活性化活動を行っている京都市北部の宮津市上世屋村での現地調査を事例として、日本の農村の活性化における課題やその解決方法を明らかにすることを目的とする。

## 2. 調査方法

本研究では聞き取り調査とアンケート調査を実施した。上世屋村に住民票を有する住民と、休日に頻繁に訪れ居住する住民に対しての聞き取り調査と、上世屋村で行われている四つの主要な活動の参加者を対象にしたアンケート調査を行った。聞き取り調査では、住民に対して、上世屋村の歴史、村での生業と生活の記憶、村の生活に対する意見や、村の将来についての希望や懸念などに関して質問した。アンケート調査は、住所・氏名・年齢・職業のほか、選択回答式質問法と自由回答式質問法を組合せた。選択回答式質問法では基本的な情報を収集し、自由回答式質問法では活動に参加した動機、活動によって受けた影響、上世屋村の問題と活性化対策についての質問をした。アンケート用紙は、活動参加時に主催者が参加者に配布し、活動終了時に提出あるいは郵送や電子メールの添付ファイルとして回収した。

## 3. 調査結果

調査総数は、聞き取り調査: 上世屋村の住民 21 人、アンケート調査: 4 活動の参加者; 村への訪問者 129 人である。集計の結果より、住民票を有する高齢者住民と、休日に頻繁に訪れる退職者住民から構成されていることが明確になった。住民はほぼ自給自足の生活を送っており、主な収入源は年金や会社の退職金である。一部の新しい住民は就業の可能性を信じている。多少の懸念や問題はあるが、ほぼ全ての住民が、新しい住民が増えることを望んでいる。

アンケートを比較分析した結果、都市部に住む人々は、農村での生活や目新しい活動を体験することに興味を持っていることが確認された。参加者はこれらの活動を、他者との交流や協同作業をする機会として捉え、また、食物が生産される過程と食物そのものに感謝をする機会として享受していた。これらの活動は、参加者に、物事について深く考える機会と自身の生活様式を考え直す機会を与えたと考えられる。熟年以上の年齢層に比べ、若い学生に顕著に現れる傾向があった。性差は、活動種類の決定に影響する要素であった。上世屋村のために将来何がなされるべきか、という質問については、学生と熟年層以上では、異なる提案や対策が示された。聞き取り調査とアンケート調査の相互参照より、住民と訪問者の両者とも、上世屋村の主たる問題は高齢化と過疎化にあると指摘した。住民の大半は、高齢化と過疎化の問題に比べ、11 月から 4 月の豪雪により、通勤や農業が困難になると指摘し、豪雪を最大の問題とした。また住民は、若い世代が上世屋に住みたいと思っても、学校がないことが問題になるだろうと懸念していた。対照的に、村での活動に参加しただけの訪問者は、どうすれば上世屋の現状を維持できるか検討していた。具体的には、雇用を生み出すこと、公共交通機関を改善しインフラを整えることが、活性化戦略として村の魅力を宣伝することである。

## 4. まとめ

上世屋で行われている活性化活動は、農村での生活に触れる機会を提供すると同時に、貴重な農業の伝統と教えを参加者に与えている。本研究において解明された活性化における課題やその解決方法は、高齢化、過疎化や豪雪といった問題を持つ上世屋村に新しい活力をもたらすと考えられる。これらの取り組みを更に強化するためには、活動の主催者は、個人の努力のみに頼らず、政府と他の組織からの支援や協力を得る必要がある。